

さわやかトカラ情報

一隅を照らす十島の教育

発行元 十島村教育委員会

〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号 ☎099-227-9771

E-mail toshima-ky@tokara.jp

八月・・・木(盆栽)に学ぶ 空に聴く
十島村教育長 原口 英典



二十歳のころまで、盆栽という家業が、嫌で嫌で仕方がなかったという盆栽家元の山田香織さん。その山田さんの言葉の中に「木というのは、何百年と年輪を刻んできた生命体である」「木というのは、剪定されても、針金で枝を曲げられても、生き続ける」という一節を見つけた。

ひたすら花を咲かせ、実をつけることを何百年も続けている木。山田さんは、「悩みを抱えている時の救いの存在は、何百年と生き抜いている生命体としての木そのものだ」という。私たちは、時として、いや、どちらかというときに、自信喪失したり、自己嫌悪に陥ったりする。また、生きる価値を見失ったり、将来の希望や展望が見えなくなったりするときもある。

そんな時、木を見つめ、木から発せられる「物言わぬいのちのことば」に聴き耳を立てていると、「それは悩みではなくて、お前が解くべき課題だ。お前がどうするか、ここでゆっくり見させてもらおう」と語りかけてくれるという。

沈黙の木から発せられるいのちの声は、普段の自分のもっと奥に潜むもう一人の自分の誕生を促してくれる。



また、ある荒れている中学校に着任した私たちの先達は、新任式のとき、ざわついている生徒の前に、ひと言「空を見よ」と言い放ったという。「気に食わないこともあるだろう。嫌なこともあるだろう。逃げたくなることもあるだろう。そんな時には空を見上げてみる。空が何かを語ってくれるぞ、聴こうとさえすれば。空からの言葉に耳を傾けてみる。」

壁にぶつかった時、荒れざるを得ない時、そんな時には、必ずそれなりの背景があろう。しかしながら、背景にとどまらず、空でもいい、木でもいい、また、盆栽でもいい。そのような物言わぬいのちと向き合うことで、私たちは、あらためて生きることの意味や意義、また、正義を自問する機会と、自己解決の力を身に付ける新たな一滴を得られるようにも思われる。



大岩に根を下したる夏木かな(虚子)

【平成25年度ファミリー劇場】

島名	開催予定日	出演者
口之島	9月7日(土)	代表 福元明美 (日本舞踊)
中之島	9月7日(土)	代表 谷口紀子 (日本舞踊)
平島	11月30日(土)	代表 米澤純一 野田郷島津太鼓
諏訪之瀬島	10月5日(土)	伊地知元子トリオ (ジャズクラシック)
悪石島	9月7日(土)	牧岡奈美(島唄)
小宝島	10月5日(土)	深川真里 (一人漫談ショー)
宝島	9月15日(日)	河野美保 (歌手)

今年もファミリー劇場開催の時期が近づいて参りました。出演者の中には、初めて十島ファミリー劇場に出演して下さる方、久しぶりのファミリー劇場出演の方もいます。

みなさん、楽しみにお待ちください。



シリーズ 十島の学校にやってきて
諏訪之瀬島分校 小3年 菅野 美沙希

私は、引っこすことがとてもいやでぜったい行きたくないずっと思っていました。もっといやだったことは、一番上のお姉ちゃんとはなれてくらすことでした。でもお姉ちゃんが、「またあそびにすればいいよ。」と言ってくれたので行こうと思いました。



島につくと分校のみんなが、えんそうしてむかえてくれました。家まであんないしてもらおうと、三人の子がいました。その三人は、とてもやさしくて、すぐにお友だちになれました。そのときが一番うれしかったです。

今では、分校のみんなと話したりあそんだりできるようになりました。けん玉もお友だちと練習したらできるようになりました。いろいろ分校のことを教えてくれて私はとてもうれしかったです。これからも、みんなといっしょにあそんだり、おべん強したりしたいです。



シリーズ 山海留学生として学ぶ
成長した自分
小櫻 斉生 現在高校1年生<鹿児島県>

すると色とりどりのさんごや魚、そしてそれらに海面から差し込んだ光が当たり、何もかもが美しく光る景色が広がっていました。そんな海の中はひんやり冷たくて、とても気持ち良かったです。そうやって泳いでいると、次第に海にも慣れ、以前より怖くなくなりました。



それ以降、島民の方々に泳ぎ方を教えてもらい、やがてライフジャケットを着用しなくても泳げるようになりました。その時以来、僕は物事を前向きにとらえ、何事も新しく挑戦するようになりました。



この学校は人数が少なく、年齢の幅も小学1年から中学3年までと、とても広いです。だからその分一人一人が重要な存在となってきます。そして上の学年は年齢がすぐ下の学年から小学生の低学年まで目を配らなければなりません。また生徒会でも全員の意見を尊重しまとめなければなりません。そんな中、僕は生徒会長になることに挑戦しました。(9月号に続く)

【子どもたちの作品】

魚つり 宝島小学校3年 平田 一華

糸を通して おもりをつけて はりをつけて
えさもつけて 海に投げる
遠くに投げる さおがしなって
つれた!!
大きなイスズミがつれたぞ



「友情とは」 宝島中小宝島分校3年 早川 千徳子

みなさんにとって良い友達とはどんな人でしょうか。

私は、孔子の「論語」にある「教養ある人、これは、つきあえばためになる」という言葉を聞いて、その通りだと思っていました。なぜなら教養ある人はいろいろなことを知っていて、自分が知らなかったことを教えてもらえるので、自分のためになるからです。

しかし、「友情」についてあらためて考えてみると、この考えは自分のことしか考えてないと思いました。友達とは互いの利益のためにつくものなのでしょうか。それは私は違うと思います。互いの利益も大切かもしれませんが、それよりももっと大切なことが「友情」にはあると思います。



私にとって友情とはお互いの利益のためではなく、何でも話しあえて、お互いを心から信頼できるものです。今からたくさんの人と出会っていく中で、友情を築き上げていきたいです。

十島村の小・中学校からのメッセージ

中之島小・中学校 養護教諭 牧角 香織

今から14年前、期限付養護教諭として十島村の小宝島へ赴任しました。初めての社会人、初めての離島、初めての一人暮らしと慣れないことばかりでした。3年目ようやく採用され、10年前に出来なかった恩返しをしたいと思い、またこの十島村へ戻ってきました。

少しばかり経験してきた養護教諭としての仕事を、中之島の子どもたちに還元できればと日々、個に応じた健康教育を実践しています。

本校では保健室を利用する子どもたちは少ないため、自分から保健室を飛び出して、積極的に保健指導や給食指導とさまざまな関わりをしています。今までの学校では、保健室に来室する子どもたちの関わりで終わってしまい、来室しない子どもたちとは、十分な関わりが出来ていなかったように思います。ここでは、一人ひとりを丁寧に観察でき、子どもたちの学校での様子や地域での様子なども伝え、担任や保護者との連携もとりやすいです。

また、十島村ならではの仕事でもある給食食材の注文は、最初はとても心配でした。少しばかりの養護教諭の経験があってもそれは役に立たず、何も分からず不安ばかりだった初任の気持ちを思い出させてくれる貴重な経験になっています。3年目の今では給食に携わる方たちの思いが伝わり、それらも給食指導の大切な教材になっています。

生活面では、フェリーも週2~3便運行し、食材は生協で注文でき、ネットでの注文もできます。また、その他で困ったことがあればすぐに島の方達が助けてくださいます。みんなで協力して、お互いに島の生活が成り立ち、人の温かさを間近で感じ、一人では生きていけないことに気づかされます。

生活面では、フェリーも週2~3便運行し、食材は生協で注文でき、ネットでの注文もできます。また、その他で困ったことがあればすぐに島の方達が助けてくださいます。みんなで協力して、お互いに島の生活が成り立ち、人の温かさを間近で感じ、一人では生きていけないことに気づかされます。

教職員であるあなたへのメッセージ



養護教諭として、子どもたちに健康教育(生きることのすばらしさやすごさ)を伝えるときに、十島村はすばらしい環境だと思います。教師としてもそうですが、一人の人間として自分自身を磨くとてもいい場所になってくれると思います。